

普及拡大へ活動計画

新世代P Ca工業会 S D P P フォーム



篠田会長

新世代P Ca工業会(会長＝篠田佳男氏)は5月27日、東京都内で平成26年度第2回WG(ワーキンググループ)会議を開催した。

同工業会ではRC構造物の省人化・省力化・急速施工・耐久性向上の観点からステンレス(SUS)鉄筋を利用した技術開発に取り組んでおり、実用化段階に入った高耐久埋設型枠SDPPフォーム(NE T I S・T H-120024-A)の新たな用途開発や新製品開発の検討等が進められている。今回のWGでは、SDPPフォームの普及に向けた作業WGの進め方、東工大で実施している補強効果確認試験の説明、新たに開発したSUS鉄筋を用いた防風板の取扱いなどについて報告や検討が行われた。

WG会議開催にあたり挨拶した篠田会長は、「当工業会は今年、設立10周年を迎える。工業会発

足時のプレキャスト化率は12%

程度で、どうすればプレキャスト化率を20%台に引き上げる事ができるのかを念頭に、施工性・品質面の課題を解決しながら低コストで使いやすい工法を開発したいとの思いで当工業会がスタートした。あつという間の10年だったように思うが、業界紙に目を通して

いると、近年はプレキャスト業界からの発信が目立ち、最近では当工業会の会員社であるヤマウ社が従来では考えられない大断面のボックスカルバート技術を開発している。このような流れをさらに進めるような視点で議論をお願いしたい」と述べた。

WG会議では、SDPPフォームの普及に向けた活動実施計画案が示され、「ゼネコンやマリコンは外部環境から技術提案等で埋設型枠の需要がある」として高耐久性埋設型枠技術を保有しないゼネコン・マリコンを主要な対象として営業展開することを確認した。

またSDPPフォームを用いた耐震補強工法に関する東工大の実験では、昨年度までに基本的な補強効果の確認ができたとして、今年

度は梁試験体を用いて補強効果の向上に関する検証を進める方針が示された。同時に実際に薄型パネルを製作することも

検討する。この他、薄型パネルでは使用材料や施工場所により施工後、表面に亀甲状のごく浅いひび割れが発生することがあるとして、対策の検討が行われた。また壁高欄への適用では、必要となる衝撃試験について対応策の検討が行われた。

SUS鉄筋を用いた防風板は、永井コンクリート(新潟県)を中心に、東京セメント工業(東京都)とランデス(岡山県)がWG方式で研究・開発を進めている製品。コンクリートパネルにSUS鉄筋を使用して薄肉断面とした。パネルは軽量・高耐久で施工性・耐塩害性に優れている。現在、新潟県内で耐塩害性の暴露実験を継続実施している。

この他、WG会議では10月に岩手県盛岡市内で開催されるコンクリート技術大会や、同工業会10周年記念行事についても意見交換が行われた。

コンクリート技術大会は、震災被災地などを巡りながら開催しており、5回目となる今回は岩手県盛岡市で行う。主要行事であるパネルディスカッションはこれまで

にない企画「コンクリート製品と生コンクリート」を取り上げる。篠田会長は、「震災の復興、東京オリンピック、国土強靱化政策以降のコンクリート界や将来の取組み等の実のある内容にしたい」と語った。